

**2012年3月期
第2四半期 決算説明会
2011年4月～2011年9月**



2011年 11月 9日
フクダ電子株式会社



1. 決算概要（連結）	1
2. 2011年度下期の主な取り組み	8
3. 2011年度業績予想	17



決算概要 連結損益の状況



単位：百万円	2010.09	2011.09	増減額	増減率
売上高	43,356	42,634	▲722	▲1.7%
売上総利益	20,427	20,716	+288	+1.4%
販売費及び一般管理費	16,325	16,548	+223	+1.4%
営業利益	4,101	4,167	+66	+1.6%
経常利益	4,132	4,391	+260	+6.3%
四半期純利益	2,445	2,613	+168	+6.9%
為替レート：ドル (期中平均)	88円	80円		
ユーロ	113円	116円		

1

○当社の2012年3月期 第2四半期の決算概要になります。

○当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響が引き続き懸念されておりますが、復旧に向けた取り組みも徐々に進み、生産活動などには回復の兆しも見えてきました。しかし、米国の景気低迷、欧州の財政問題などを背景に円高・株安が進むなど先行きは不透明な状況となっております。

○医療機器業界においては、昨年4月の診療報酬改定が10年振りにプラス改定となり、医療機関の経営環境改善が期待されておりますが、質の高い製品とサービスの提供をしつつ経営の効率化や合理化が求められる状況が続いております。

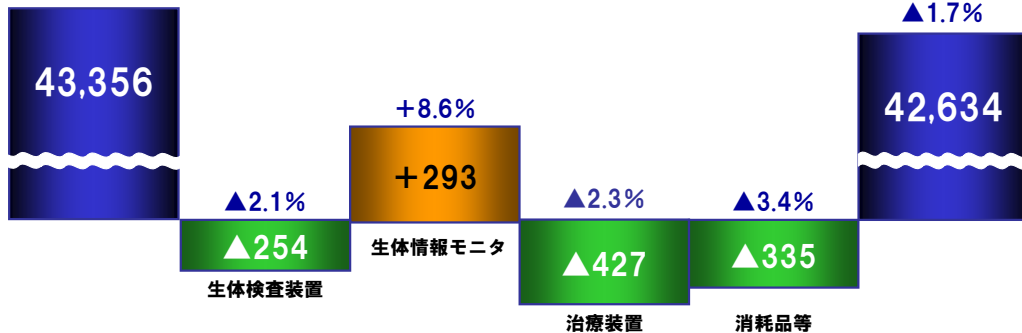
○このような経済状況の下、当社グループの第2四半期連結売上高は426億34百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は41億67百万円（前年同期比1.6%増）、経常利益は43億91百万円（前年同期比6.3%増）、四半期純利益は26億13百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

売上高増減要因



(単位：百万円)

2010年09月実績



単位：百万円	2010.09実績	2011.09実績
生体検査装置	11,933	11,679
生体情報モニタ	3,402	3,695
治療装置	18,226	17,799
消耗品等	9,794	9,459
売上高合計	43,356	42,634

2

○セグメント別の概況になります。

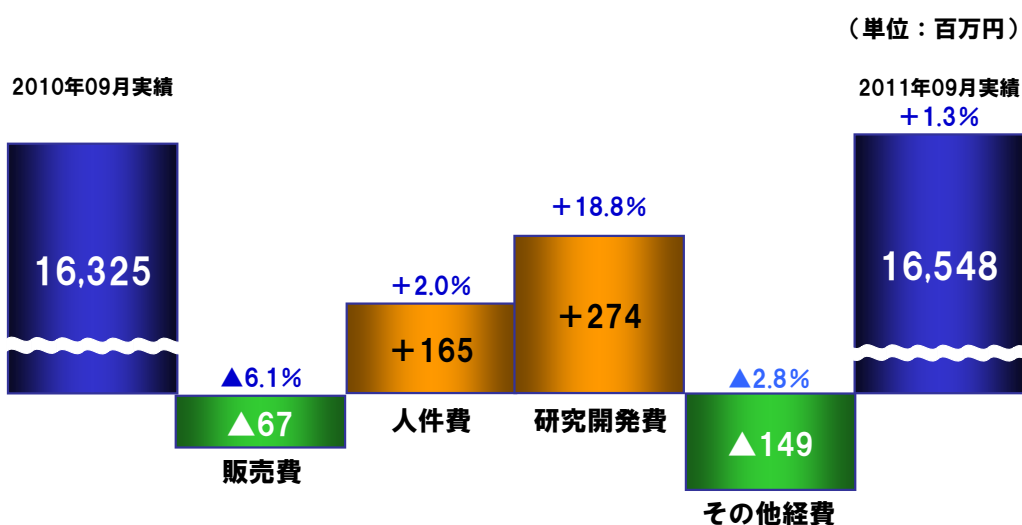
○生体検査装置につきましては、自動血球計数装置、血圧脈波検査装置は伸長しましたが、心電計関連の売上が減少し、連結売上高は116億79百万円（前年同期比2.1%減）となりました。

○生体情報モニタにつきましては引き続き伸張し、連結売上高は36億95百万円（前年同期比8.6%増）となりました。

○治療装置につきましては、在宅医療向けレンタル事業は引き続き伸張しましたが、人工呼吸器、ペースメーカ、カテーテルの売上は減少し、連結売上高は177億99百万円（前年同期比2.3%減）となりました。

○記録紙、ディスプレイ電極や上記各部門の器械装置に使用する消耗品や修理・保守などが含まれる消耗品等部門につきましては、連結売上高は94億59百万円（前年同期比3.4%減）となりました。

販売費および一般管理費



3

- 販売費および一般管理費は、全体では1.3%の増加となりました。
- 人件費は販売力強化のため対前年2.0%の増加、研究開発費も18.8%の増加となりましたが、一方で販売費は対前年で6.1%、その他経費は2.8%減少しています。

US\$が1円変動した場合

約3百万円の影響

EURが1円変動した場合

約6百万円の影響

社内レート

通貨	2011.03 (10年度)	2012.03 (11年度)
US\$	95	85
EUR	130	115

4

○為替変動の業績への影響（第2四半期累計）については、当社は輸入超過となるため、US\$が1円の円高となった場合は約3百万円、EURが1円の円高となった場合は約6百万円、業績にプラスとなります。

○社内レートにつきましては、2011年3月期はUS\$を95円、EURを130円で設定していましたが、2012年3月期はUS\$を85円、EURを115円で設定しております。

緊急対策本部（本部長：代表取締役社長 福田孝太郎）を設置
震災直後からお取引先医療機関・患者様の安否確認やライフラインの整備状況把握など、情報収集に努める。

■ME機器事業

現地支援活動に寄与する、救護マット、携帯型パルスオキシメータ、人工呼吸器、生体情報モニター、AEDの他、消耗品などを供給。

■在宅医療サービス事業

東京本社から被災地までの各営業拠点で連携、被災地に酸素濃縮器や酸素ボンベなどを供給。計画停電対応では、主治医の指示に基づき、患者様に代替器や予備ボンベ、非常用バッテリーを提供。

被災地の医師会や医療機関からの支援要望などにも全力で対応

5

- 3月11日に発生した、東日本大震災におきましては、震災発生直後に、代表取締役社長 福田孝太郎を本部長とした緊急対策本部を立ち上げ、お取引先医療機関・患者様の安否確認やライフラインの整備状況把握など、情報収集に努めました。
- ME機器事業におきましては、現地支援活動に寄与する、救護マットや携帯型パルスオキシメータ、人工呼吸器などを被災地に供給させていただきました。
- 在宅医療サービス事業におきましては、グループ内で連携をはかり、被災地のニーズに応じて酸素濃縮器や酸素ボンベなどを供給しました。また、計画停電への対応においては、主治医の指示に基づき、在宅で機器をご使用いただいている患者様に、代替器や予備ボンベ、非常用バッテリーなどをご提供しました。
- また、上記以外にも、被災地の医師会や医療機関などからのご要望に応じて、支援物資や医療機器の提供を行いました。

製造拠点の状況

■フクダ電子多賀城研究所（宮城県多賀城市）

津波の影響で操業停止。一時期、白井事業所にて代替生産を行っていたが、7月1日より生産再開。

■白井事業所（千葉県白井市）

一部の電子部品供給元が被災したが、納期遅延などの懸念は解消。

※節電への取組み

8月は昨年最大値との比較で約48%の節電を達成。

今後も冬季の電力不足を鑑み、引き続きグループ全体で節電対策に取り組んでまいります。

6

- 東日本大震災による当社業績への影響についてですが、製造拠点の一つであるフクダ電子多賀城研究所（宮城県多賀城市）が、津波の影響で一時操業を停止し、白井事業所にて代替生産を行っていましたが、7月1日より生産を再開しました。
- また、一部の電子部品供給先が被災した影響で、千葉県の白井事業所におきましても、納期遅延などが生じる可能性がありましたが、現時点でその懸念は解消されています。
- 一方で、当社では以前よりデマンドシステムなどの導入により、節電対策に取り組んでおりましたが、計画停電など電力が逼迫している状況を鑑み、空調やOA機器の使用制限などで、8月は昨年夏の使用電力最大値との比較で、約48%の節電を達成しています。今後も引き続きグループ全体で節電対策に取り組んでまいります。

医療材料・消耗品の製造拠点として
平成24年秋 操業開始予定



7

- 多賀城研究所の被災に伴い、同じ宮城県内に、医療材料・消耗品の製造拠点として、新工場フクダファインテックを建設いたします。操業開始は平成24年秋を予定しています。

2011年 下期の主な取り組み

中期経営計画の体系	9
市場環境の変化	10
急性期病院市場への取り組み	11
虚血性心疾患分野への取り組み	12
不整脈疾患分野への取り組み	13
診療所市場への取り組み	14
在宅医療分野への取り組み	15
厚生労働大臣賞を受賞	16



○続きまして、2011年度下期の主な取り組みについてご説明させていただきます。

社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、
医学の進歩に寄与する

中期目標

2015年3月期 売上 1,000億円 以上
経常利益率 8.0% 以上 を達成する

事業課題

ドメイン別事業展開の推進

病院

検査～治療～経過観察まで一貫した医療環境を提供

診療所

地域医療を担う「かかりつけ医」をサポート

少子高齢化の進展に伴い変化する医療環境に貢献

9

- まず初めに、中期経営計画の体系になります。
- 当社といたしましては、「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する」という経営理念の下に、中期的には、2015年3月期に売上1,000億円以上、経常利益率8%以上を達成することを目標としております。
- 事業課題といたしましては、ドメイン別の事業展開を推進し、病院市場においては「検査～治療～経過観察まで一貫した医療環境の提供」、診療所市場においては「地域医療を担う『かかりつけ医』のサポート」により、少子高齢化の進展に伴い変化する医療環境に貢献してまいります。

重点領域 = 「急性期病院」 & 「在宅」

急性期
病院

モニタ & 周辺機器の充実

低侵襲の治療領域の強化

在宅

呼吸器系在宅医療に特化した専門事業展開

選択と集中で高収益体質を実現

10

- また、高齢化に伴う市場環境の変化を踏まえ、当社といたしましては、「急性期病院」と「在宅」を重点領域として考えております。
- 急性期病院分野につきましては、モニタ製品やその周辺機器の充実をはかるとともに、ステントなどの低侵襲の治療領域の強化を進めてまいります。
- 在宅分野につきましては、呼吸器系在宅医療に特化した専門事業を展開し、選択と集中により高収益体質を実現してまいります。

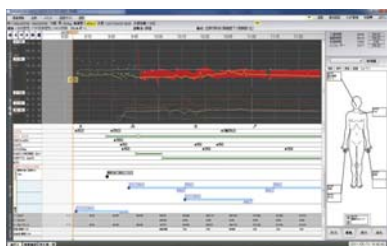
生体情報モニタ & システム製品のラインナップ拡充

患者データを
統合管理

集統計機能で
業務効率の分析

デュアルディスプレイ
で集中管理

GUIに基づき
操作性を追求



NEW 急性期患者情報システム
Mirrel CW-5000
Medical Information Reference Network Operation Unit



セントラルモニタ
DS-7700



ベッドサイドモニタ
DS-8500

経営効率化・業務効率化の支援

11

- 続いて、具体的な施策についてご説明させていただきます。
- 急性期病院市場では、モニタやシステム製品のラインナップを拡充し、医療機関の経営効率化・業務効率化をサポートいたします。
- 新製品の急性期患者システム「ミレル」は、急性期部門でのデータの取り込みを行い総合的に患者管理を行うほか、コスト連携やデータ二次利用で、経営の見える化を支援します。
- また、デュアルディスプレイによる集中管理を実現したセントラルモニタや操作性を追求したベッドサイドモニタなど、生体情報モニタのラインナップも充実しています。



多角的な検査と自社開発の低侵襲治療

心臓カテーテル検査

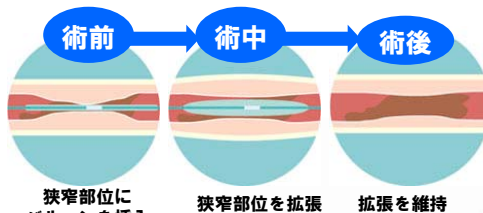


フクダ造影カテーテル
トレールシリーズ

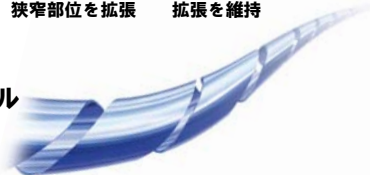


心臓カテーテル検査装置
MCS-9000ポリグラフシステム

血管の狭窄を拡張し治療



PTCAカテーテル
サイクロン
サイクロンHP



狭心症・心筋梗塞への確実な対応を実現

○虚血性心疾患の分野では、心臓カテーテル検査や自社開発の低侵襲治療、PTCAカテーテルサイクロンのご提案で、狭心症・心筋梗塞への確実な対応を実現します。



心機能の総合評価から治療までをトータルサポート

不整脈の発生部位を検査

豊富なラインナップで多様な手技に対応

NEW



EP電極カテーテル
フィーポ Fe-po™



心臓電気刺激装置
BC-1100

不整脈を治療

ボストン・サイエンティフィック・ジャパンとの業務提携により商品力強化

Boston Scientific



FUKUDA DENSHI



植込み型除細器



両室ペースティング機能付
植込み型除細器



心臓ペースメーカー

不整脈疾患の克服を目指して

13

○不整脈疾患分野では、豊富なラインナップで多様な手技に対応するEP電極カテーテルFe-po（フィーポ）やボストン・サイエンティフィック社との業務提携による商品力強化で、心機能の総合評価から治療までをトータルサポートし、不整脈疾患の克服を目指します。

患者満足度向上につながるソリューション提案の推進

検査結果を
その場で説明



検査データビューアソフト

見やすい患者レポート



多機能心電計

わかりやすい検査指標

血管年齢



血圧脈波検査装置

肺年齢



電子式スパイロメーター

診断をより「素早く」「わかりやすく」

14

○診療所市場では、患者満足度向上につながるソリューション提案を推進します。

○検査結果をその場で説明できるビューアソフトや、見やすい患者レポート、わかりやすい検査指標など、診断をより「素早く」「わかりやすく」する、各種機器をご提案いたします。

データに基づく的確な疾病管理の実現



より安全・安心・快適な療養環境で患者様QOLを向上

15

○在宅医療分野では、フクダホームケアマネジメントシステムでデータに基づく的確な疾病管理を実現します。

○また、新製品の携帯型酸素濃縮装置 AW-L（エアウォークライト）により、外出先の疾病管理も可能となり、安全・安心・快適な療養環境のご提供で患者様のQOL向上を目指します。

血圧に依存しない動脈硬化指標「CAVI」

第9回
産学官連携
功労者表彰

血圧脈波検査装置VaSera（バセラ）の開発が
「厚生労働大臣賞」を受賞



血圧脈波検査装置
VaSera VS-1500Aシリーズ

生活習慣病予防・スクリーニングに有用

16

○当社の研究開発の成果として、血圧脈波検査装置VaSera（バセラ）の開発が、第9回産学官連携功労者表彰で厚生労働大臣賞を受賞いたしました。

○生活習慣病予防・スクリーニングに有用な、血圧に依存しない動脈硬化指標「CAVI」が評価されました。

2011年度 通期業績予測



単位：百万円	2012.03 当初予想	2012.03 修正予想	増減額	増減率
売上高	88,800	90,000	+1,200	+1.4%
営業利益	7,000	8,100	+1,100	+15.7%
経常利益	7,000	8,100	+1,100	+15.7%
当期純利益	3,500	4,200	+700	+20.0%

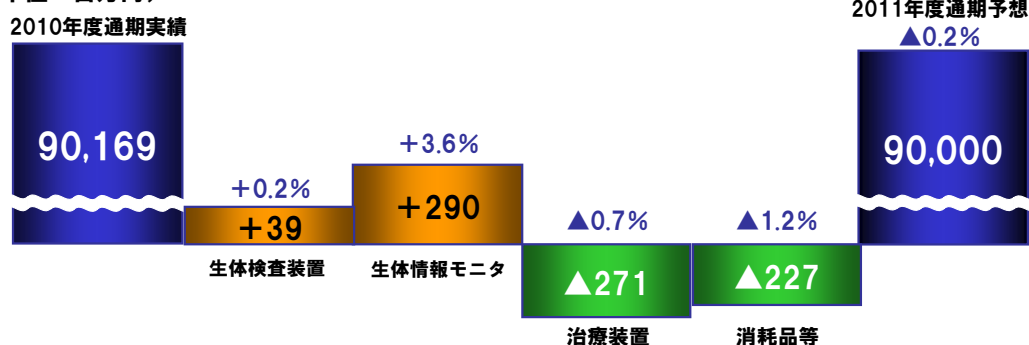
17

- 2011年度の通期業績予測につきましては、10月24日に業績予測を修正させていただいております。
- 修正内容といたしましては、売上高が12億円の増加で900億円、営業利益・経常利益が11億円の増加で81億円、また当期純利益は7億円の増加で42億円を見込んでおります。
- 主な修正理由といたしましては、震災による製品供給体制における懸念事項が概ね解消されたことによるものです。

2011年度 売上高増減要因



(単位：百万円)



単位：百万円	2011年度上期実績	2011年度下期予想	2011年度通期予想
生体検査装置	11,679	14,021	25,700
生体情報モニタ	3,695	4,605	8,300
治療装置	17,799	18,701	36,500
消耗品等	9,459	10,041	19,500
売上高合計	42,634	47,366	90,000

18

- 2011年度のセグメント別の連結売上の通期予想です。
- 全体では900億円、ほぼ前年並の売上を見込んでおります。
- 生体検査装置につきましては、ほぼ前年並の257億円、生体情報モニタにつきましては、前年から2億90百万円増加の83億円の売上を見込んでおります。また、治療装置は2億71百万円減収の365億円、消耗品等は2億27百万円減収の195億円の売上を見込んでおります。

[お断り]

この資料に記載されております業績予想数値は、当社および当社グループの事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を及ぼす要因について、現時点で入手可能な情報に基づいての見通しであり将来に亘る部分については、皆様の投資のご参考に資するために、ご提供をさせて頂くものです。

同数値については市況、競争状況、新製品および商品の投入状況など多くの不確実な要因の影響を受け予想と異なる結果になることが有るため、保証をお約束するものではありません。

以上のことを、ご認識頂き、ご活用をお願い致します

この資料に関するお問合せは、下記をお願いいたします。

経営企画部：福田・久野

TEL: 03-5684-1558 FAX: 03-5684-1577 email: info@fukuda.co.jp



〒113-8483 東京都文京区本郷三丁目39番4号

2011年11月 中期経営計画資料 証券コード:6960 Copyright 2011 Fukuda Denshi Co., Ltd. All right reserved